

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490900154	事業の開始年月日	平成21年4月1日	
		指定年月日	平成21年4月1日	
法人名	株式会社 ニチイ学館			
事業所名	ニチイケアセンター樽町			
所在地	(222-0001) 神奈川県横浜市港北区樽町4-9-30			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	平成26年8月27日	評価結果 市町村受理日	平成26年12月26日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>認知症サポーター養成研修修了者4名（昨年より2名が追加）が樽町地域ケアプラザと連携して、認知症になっても安心なまちづくりに貢献すべく活動しています。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年9月10日	評価機関 評価決定日	平成26年12月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 当事業所は東急東横線綱島駅からバスで10分、徒歩3分の所にある。平成21年に株式会社ダスキンから事業を譲渡され、今日に至っている。1階には同法人の運営する通所介護、居宅介護支援、訪問介護が併設され、同ビル1階には協力医のクリニックが入居している。</p> <p>【理念に基づく支援の実践】 事業所理念「ここは樽町家」は、ここが家のように安心できる場にしたい、アットホームなグループホームを目指したいという職員の思いがこもっている。食事は、法人の栄養士の作る献立を基にしているが、利用者の希望も取り入れている。食材は毎日利用者と同じ物に出かけるなど、家庭的な環境づくりに努めている。職員も家族のように仲良く、利用者にとっては我が家のようにくつろげるグループホームをめざし、支援を行っている。</p> <p>【地域との連携】 町内会に加入し、町内清掃などの活動を通じ親睦を深めている。キャラバンメイト養成研修受講者が4名おり、近隣の中学校で認知症サポーター養成研修を開催した。デイサービスと合同の行事や「ニチイ祭り」などを通じ、近隣の住民との交流を図っている。ボランティアの参加も多い。地域包括支援センターの食事会や近隣商店への買い物など、利用者が積極的に外部に出て行って、近隣と交流をしている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンター樽町
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家」という理念をスタッフで共有している	アットホームなグループホームを目指し「ここは樽町家」という理念を3年前に職員と話し合っって作った。事務所などに掲示している。職員は常に目にしているが、特に周知は行っていない。	理念が日ごろのケアの核になるように、時折振り返り理念について話し合う機会を持つことを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーへ買物に出かけたり地域の出張パン屋を利用している	町内会に加入し、回覧板で町内掃除等の情報を確認し、参加している。地域包括支援センター主催の食事会に定期的に利用者と共に参加している。事業所が行う「ニチイ祭り」に近隣の方を招待し、毎年多数の参加がある。近隣の中学校とも交流がある。アロマセラピーやコーラスなどのボランティアが来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバン・メイト養成研修修了者4名(昨年より2名が追加)が樽町地域ケアプラザと連携して、認知症になっても安心なまちづくりに貢献すべく活動中		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域包括・民生委員・家族が話し合い、事例報告にてサービスの向上に努めている	2か月に一度、地域包括支援センター職員、民生委員、利用者家族の参加を得て開催している。事業の報告の他、地域包括支援センターとは情報の共有に努めている。あまり積極的な意見は出ない。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	キャラバン・メイト養成研修修了者4名が今後の活動をすべく協力体制を整え始めている	区から勉強会や研修などの情報を得て受講している。生活保護受給者のケースワーカーと連携している。地域包括支援センターとは、食事会に呼ばれたり、外出時の車いすが不足した時に借りるなど連携している。横浜高齢者グループホーム連絡会に参加し、市との連携に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を通して全てのスタッフが、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	月1回のホーム会議で身体拘束について勉強会を行った。実践者研修のレポートを作成するときに「自分がされては嫌なこと」を職員皆で考えてもらい、改めて拘束とは何かを考えた。帰宅願望がある利用者があるため、事業所の入り口、玄関は施錠している。	言葉による拘束について、職員に周知するとともに、安全を確保しつつ開錠できる環境づくりに取り組まれることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を通して管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を通して管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度を学び、個々の必要性を関係者と話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見・ご要望などを表せる機会を設け、ご要望には出来る限り対応している。	エレベーターフロアに「意見箱」を設置している。運営推進会議や面接時に意見を聞くことが多い。意見は「連絡ノート」を使って職員全体で共有している。法人がアンケートを実施し、利用者家族の意見を収集している。掃除の仕方について指摘があり、現在改善に努力している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を適宜設け、反映している	職員は、月1回開かれるホーム会議に意見を述べている。管理者は、毎日のミーティングや仕事の後に職員と個人的に話すこともある。アクティビティの種類を増やすなど、職員の意見をきちんと受け止め改善に生かしている。意見は「申し送りノート」でも共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と定期的に面談し、勤務状況・健康状態を確認し、人事考課面接を実施している。また相談等にも適宜応じている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を受ける機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜高齢者グループホーム連絡会に参加してサービスの質の向上に繋がる取り組みを行っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	内覧、面談、契約時に不安や要望など聞き、適宜電話等々で対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お客様との面談時、傾聴し対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お客様の意向に沿えるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の得意なこと、出来ることを確認し自立の意識をもっていただきながらを共にしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンス、面会、電話等々でご相談させて頂いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話、ご友人が尋ねて来る方もいる	家族や知人、友人が来訪し、一緒に外出する利用者が複数いる。家族と自宅に帰って食事をとる利用者もいる。近隣の馴染みの店での買い物に、利用者の散歩を兼ねて毎日出かけている。近隣の神社へ初詣に出かけたり、昔の歌や映画を見る機会を大事にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お世話好きな方がいらして、出来る範囲で支え合っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援の必要性があれば、出来る限り対応させて頂く		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	対話の機会を設け、ご家族、ご本人の意向は反映している	利用前に自宅でアセスメントを実施し、生活歴などを参考に思いや意向の把握に努めている。利用者と職員がマンツーマンの時に話したり、普段の会話で思いを汲むことが多い。意向の把握が困難な利用者には、わずかな動作や小さな変化から思いを汲んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを通して経過等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等を介護記録に記載し現状の把握に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者と話し合い、意見やアイデアを反映し、介護計画を作成している	個人ファイルに、アセスメント、計画書、サービス担当者会議記録、モニタリング、評価をまとめ、定期的に見直しをしている。職員も計画書を目にしている。家族には電話や来所の折に意見を聞き、医師、看護師が参加するサービス担当者会議を開いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・管理日誌・申し送りノートで情報を共有し、適宜対応することやケアプランの見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や必要性に対応して、柔軟な支援やサービスを提供している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの方、民生委員の方の協力を得て支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診で、随時相談援助を行っている	全員が同一建物にある「みなとメディケアクリニック」の訪問診療を受けている。専門医の受診は家族対応が原則ではあるが、職員が対応することもある。週1回、クリニックから訪問看護師の派遣がある。オンコールで相談ができる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を通して、訪問看護師に相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ムンテラに出席し、病院関係者と情報交換を通じて関係づくりを行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時往診医と家族と話し合いを行い、事業所で出来ることを十分に説明しながら方針を共有している	法人統一の指針があり、利用前に指針の説明を行っている。医療と家族の連携が十分ある場合には、できるだけケアをする方針ではあるが、実際の看取りとなったケースはない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	有事に備えて、応急手当や初期対応の訓練を行い、実践力を身に付けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や近所の方々と合同で避難訓練を行っている	昨年はデイサービスと合同で近隣住民の参加を得て事業所全体の大がかりな訓練を行ったが、今年6月はグループホーム独自の防災訓練を行った。非常階段を使い9名全員を1階に誘導した。災害備蓄も交換期とのことで廃棄し新しい備蓄が届いていないため、確認ができなかった。	日頃から近隣住民との協力関係を確認することを期待します。備蓄も交換期に災害が起こらないとも限りませんので、空白期間を作らないよう配慮が必要です。水や食品のストックはリストで確認するなど、早めの手配が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応をしている	利用者を人生の先輩として考え、否定しない対応を心掛けている。接遇の研修を今年行い、本人の気持ちに沿った声掛けをすることを確認した。個人情報を含む書類は鍵のかかった書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	随時、ご本人の思いや希望を伺い、かなえられるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、出来る限り希望をかなえるべく支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容は1.5ヶ月に一度来て頂いており、着衣についてはご本人の好みで毎日着替えています		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お好きなものを献立に反映し、一緒に準備や食事、片付けをしている	法人ホームページの献立例（栄養士作成）を参考にその日の献立を決め、食材の買い物に行っている。誕生会などには利用者の好みのメニューを聞いて提供することもある。時折ベランダでバーベキューや流しそうめんを行い、皆で楽しんでいる。近隣の商業施設に歩いて外食に行くこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を介護記録に記載し適切な支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録に排泄パターンを記載し、排泄の自立に向けた支援を行っている	バリアフリーのトイレが3か所あり、1つは車いす対応になっている。トイレトペーパーを自室に持ち帰る利用者がいるため、各トイレにはトイレトペーパーや手ぬぐい等は置かないことにしている。個人の記録に排泄の記録を残し、時間を見て誘導している。誘導がうまくいかないため自室でパット交換を行っている利用者も複数いる。	排泄の自立をめざし、トイレでの排泄を習慣づける支援を期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	見た目を損なわない程度に、消化し易い形態にする等、個々に応じた予防に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	出来る限り、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は希望に応じて毎日入る利用者もいる。入浴したくない利用者にはシャワー浴にしたり、職員の声掛けを工夫したり、入浴時間を変更するなどの対応をしている。入浴剤は使用しないが、風呂の中で遊べる道具や季節ごとの行事湯など工夫して楽しめるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療従事者の指示に従い、支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。	雨の日以外は利用者と共に毎日買い物に出かけている。職員に余裕があるときは散歩に出かけられるよう配慮している。ベランダを使用し洗濯物を一緒に干すなど外気に触れる機会を作っている。車いすや徒歩で行けるレストランに時折出かける。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	何人かの方がお友達との手紙のやりとりをしている。電話はいつでも使えるよう支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全で心地よく生活できるよう季節により工夫している	広い居間やベランダがあり、明るく日差しもよく入る。バリアフリーの館内では壁伝いに手すりが設置してある。浴室はヒーターや扇風機を利用している。壁や各室の入口にあった飾りは、利用者がとってしまうので現在は何も飾っていない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時は席が決まっているが、その時々に応じて気のあった人と座って話しをしたり、一人で離れて座ったり自由に過ごして頂いています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室は、お客様の個性をいかし成るべく使い慣れた物を持ち込んで頂いている。ご本人の状態にあわせご家族と相談し、持ち込み、持ち帰りを行っている	居室は簡素で各自ベッドやカーテンを持ち込んでいる。その他の家具や小物等の持ち込みは確認できなかった。	安全性と共に、本人と相談しながら居心地の良い落ち着いた空間作りに取り組むことを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の状況にあわせ、自尊心などを配慮して、混乱のないような声かけの工夫をしている		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ニ子竹3セン2 穂田

作成日 H.26.12.22.

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有と実践	スタッフ1人1人が理念を共有し、意識しながら業務に務めるようにする。	朝の申し送り時に読みあがらせ、会議記録のファイルに上げるようにする。	3ヶ月。
2	35	災害対策	備蓄の消費期限が切れないようにする。	至急本社に申請をあげて手配する	3ヶ月。
3	54	居心地よく過ごせる居室の配慮	居心地の良いい空間づくり。	情報共有を密に行い、ご利用者の居心地の良いい、過ごしやすい環境づくりをする	1年
4	76	自休拘束をしないための実践	言葉による拘束について周知する。	会議などで勉強会を行って、スタッフに周知してもらう	6ヶ月。
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。